

No.660 (改題620号)
2025年
2月12日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所: 新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

25年を希望と前進の年に
参院選へ決意固める旗開き

新社会党
兵庫県本部

新社会党兵庫本部(栗原富夫委員長)は2025年の「新春の集い」(旗開き)を1月25日、「新春講演会」として神戸市内で開き、石河康国・元新社会党副書記長の講演に学ぶとともに、夏の参院選やそれに先立つ6月の尼崎市議選での勝利をめざす決意を固めた。



石河康国・元新社会党副書記長の講演をメインに開かれた新社会党兵庫本部の新春の集い(旗開き)=1月25日、神戸市長田区



マイナ保険証の問題を落語で訴えた都亭アロハさん=1月25日

司会の岡崎彩子県本部書記長の開会あいさつで始まった「新春の集い」の冒頭、栗原委員長がいさつに立ち、不安定さや混乱の度が増す国内外の情勢にふれながら、

岡崎宏美・新社会党中央本部委員長から激励を受けたあと、各政党代表として、立憲民主党県連・井坂信彦代表(衆議院議員)、日本共産党県委員・村上亮三副委員長、緑の党グリーンズジャパン兵庫本部・丸尾牧共代表(県会議員)からそれぞれ平和や民主主義、国民の暮らしの安定のために自公権腐敗政治の打倒をめざして共に闘おうとの連帯のあいさつを受けた(社民党県連からはメッセジ)。

さん(党水支部所属の菊地真千子さん)による落語。マイナ保険証をめぐるトラブルをネタに、国民に押しつけられているマイナ保険証の問題点を自作の落語でもしっておかし訴え、会場を沸かせた。

メインの講演では、石河さんは、戦後歴史の画期を振り返りつつ今日の日本の政治情勢の特徴について、9条明文改憲は先延ばしにはなったものの戦争準備には歯止めはかからず護憲勢力は戦後最少になったと指摘。一方で、戦争の現実から「抑止力」の非現実性は逆に明らかになっているとして、「非武装・中立」の復権は可能だと強調。直ちに変わらなくても、小さいながらも確実な勢力をきちんと形成していくことの大切さを訴えた。

災害時の石綿対策を考える

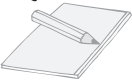
神戸でシンポジウム開く 1.12

阪神・淡路大震災から30年にあたり、「災害とアスベストを考えるシンポジウム」が1月12日、神戸市内で開かれ、アスベスト問題に関心を持つ約150人が参加した。主催したのは、NPO法人ひょうご労働安全衛生センターなどこれまで災害アスベスト問題に取り組んできた団体や研究者、弁護士らが1昨年12月に発足を発表し、昨年1月から活動を開始してきた「災害とアスベスト」プロジェクト。この1年間、①阪神・淡路大震災時ににおけるアスベスト飛散の再検証、②ボランティアの活動実態とアスベストに対する意識調査、③復旧・復興作業に従事した人々の労働実態、④今後の地震や自然災害時のアスベスト対策などを課題にして調査・研究を行ってきたおり、それらを記録に残す作業にも取り組んできた。



約150人が参加し8人の研究者らからの報告を聞いた=1月12日、神戸市中央区

ひょうご(158)
描き、歩き



龜山本徳寺

(姫路市龜山)

山陽電鉄龜山駅の東側の線路沿いにおよそ150m四方の広い敷地を持つ運上人を開基とする浄土真宗の別格寺院「龜山本徳寺」がある。

戦時中まで現「龜山駅」は「龜山御坊駅」であり、周囲にも10ほどの寺が集まり、すぐ東を飾磨街道が南北に通る、飾磨津から姫路城飾磨門まで約4kmの計画道路が通る。

ここより少し西、英賀に英賀本徳寺があったが、信長・秀吉に破壊され、この龜山に移築された。スケッチの大門から入ると正面に着物の裾を広げたような緩やかな曲線の大屋根の本堂があり、渡り廊下で表書院に繋がる。この本堂は、火災で焼失した後、京都西

本願寺の北集会所の建物を移築したもので、そのためにこの本堂の柱には、新撰組が壬生から移って屯所として一時使用していた当時の刀傷が残っている。そんなこともあってかNHKの大河ドラマ「新撰組」のロケにも使用された。姫路は国内有数のロケ地で、「乱」影武者「大奥」で姫路城、「ラストサムライ」「武蔵」で書写山円教寺など、時代劇でよく使われる。姫路と鳥取を結ぶ国道29号を辿る最近作「ルート29」では今の姫路の街も境内には大玄関や太鼓楼等、文化財も多い。毎月第4日曜日には楽市楽座が開かれ、フリーマーケットや骨董市などで賑わう。(嶋合)



阪神・淡路大震災から30年、「災害とアスベストを考えるシンポジウム」が1月12日、神戸市内で開かれ、アスベスト問題に関心を持つ約150人が参加した。主催したのは、NPO法人ひょうご労働安全衛生センターなどこれまで災害アスベスト問題に取り組んできた団体や研究者、弁護士らが1昨年12月に発足を発表し、昨年1月から活動を開始してきた「災害とアスベスト」プロジェクト。この1年間、①阪神・淡路大震災時ににおけるアスベスト飛散の再検証、②ボランティアの活動実態とアスベストに対する意識調査、③復旧・復興作業に従事した人々の労働実態、④今後の地震や自然災害時のアスベスト対策などを課題にして調査・研究を行ってきたおり、それらを記録に残す作業にも取り組んできた。



約150人が参加し8人の研究者らからの報告を聞いた=1月12日、神戸市中央区

阪神・淡路大震災から30年。倒壊した住宅、燃える街、避難所への炊き出しなど、残っていた当時の写真を見せ、地震の力の大きさと被害の惨状を伝える。地震は自然現象で、止められない。自然災害の被災者支援を目的とした「被災者生活再建支援法」は阪神・淡路大震災をきっかけにできた法律である。震災後の1996年9月に被災者支援策を政府に要求して署名活動が始まった。私有財産に公費は投じられないという政府の考え方に對し、全国で2400万筆の署名を集め、被災地から国会行動を繰り返し、1998年、市民と議員が力を合わせた結果、成立した。だが、阪神・淡路の被災者には適用されず、義援金と復興基金が支援に使われた。2011年、東日本大震災では恐れていた福島第一原発事故が起きた。元の場所に住めなくなった長期避難者への適用はなぜ認められず「自然災害」で論争。当時の民主党政権は東京電力に損害賠償の責任があると答えている。爆発は地震が原因にもかかわらず、石橋克彦・神大名誉教授は30年の集いで南海トラフ巨大地震・原発震災に触れ「自然災害と共存せざるをえない人類は『過剰文明』からの脱却と節度ある人間活動を力説した。

水脈

阪神・淡路大震災から30年。倒壊した住宅、燃える街、避難所への炊き出しなど、残っていた当時の写真を見せ、地震の力の大きさと被害の惨状を伝える。地震は自然現象で、止められない。自然災害の被災者支援を目的とした「被災者生活再建支援法」は阪神・淡路大震災をきっかけにできた法律である。震災後の1996年9月に被災者支援策を政府に要求して署名活動が始まった。私有財産に公費は投じられないという政府の考え方に對し、全国で2400万筆の署名を集め、被災地から国会行動を繰り返し、1998年、市民と議員が力を合わせた結果、成立した。だが、阪神・淡路の被災者には適用されず、義援金と復興基金が支援に使われた。2011年、東日本大震災では恐れていた福島第一原発事故が起きた。元の場所に住めなくなった長期避難者への適用はなぜ認められず「自然災害」で論争。当時の民主党政権は東京電力に損害賠償の責任があると答えている。爆発は地震が原因にもかかわらず、石橋克彦・神大名誉教授は30年の集いで南海トラフ巨大地震・原発震災に触れ「自然災害と共存せざるをえない人類は『過剰文明』からの脱却と節度ある人間活動を力説した。

神戸市中央区海岸通に市会決議が刻まれた「非核『神戸方式』の碑」が市民によって建てられている



「非核『神戸方式』の碑」
核兵器搭載艦艇の神戸港
入港拒否に関する決議

「1・17のつどい」が開かれ、30年という節目の年でもあり例年以上に多くの人が参加した。こうした行事の傍らで、「震災弱者」を置き去りにするよう神戸市の復興行政を経験し、批判してきた市民運動にかかわる人々が17日、神戸市役所前で「追悼・連帯・抗議」のスタンディング行動を行った。

この日、あわはら富夫神戸市議がまずマイクを握り、震災当時の被災地や被災者の運動をふり返り、被災者自身が立ち上がり国会議員と共に成立させた被災者生活再建支援法の意義について触れ、出発時からは改善はされ

- 主催：非核神戸方式を考える全国の集い実行委員会
- 共催：憲法を生かす会・ひょうごネット
- 問い合わせ先：現地神戸／中村 nspkobe@portnet.ne.jp
- ZOOM参加の場合
 - ・ミーティングID番号：823891311
 - ・パスコード：8516688
- 賛同金、ZOOM参加費の振り込み先
ゆうちょ銀行 口座名義／ハマケイスケ
口座番号／15160067596051

呼びかけ

非核神戸方式50周年記念

ワークショップ非核条例 を考える全国の集い 非核神戸方式を今こそ全国へ

● 3月15日(土) 13:40~16:30
● 神戸市教育会館・大ホール
(JR元町駅・東口から徒歩10分)

今年、いわゆる「非核神戸方式」「核兵器積載艦艇の神戸港入港拒否に関する決議」が神戸市会で採択されたから50年という節目の年だ。1975年3月18日、同決議は可決された。

戦後、神戸港が米軍に接収され、1974年に全面返還されるまでは、ベトナム戦争では兵器の運搬、米兵遺体の保存場所や運搬施設として使用され、米軍がやりたい放題で使っていた。

しかし、「日本に寄港する艦艇は核兵器を外さない」という1974年の米議会でのロック証言を契機に、市民や労働者の運動が起こり、神戸市会が平田辰男議員(日本社会党)が「将来核武装をしている疑いのある米艦船の入港という状態が生まれたらどうするか」と質問したことに対し、当時の宮崎市長は「核艦

船の入港を拒否する」と答弁。これを受け全会一致で決議がされた。その後、神戸港に入港した核保有国の外国艦艇(フランス、インド)は8隻のみ。イギリスは7隻入港を打診したが、神戸市の「非核証明書の出発」との説明で入港を断念。米艦艇については入港の打診すらない。核積載艦艇の神戸港入港を拒否する「非核神戸方式」は港法にもとづき、港の管理・運営権を持つ神戸市が、市会決議(市民の総意)にもとづき行政指導として運用しているもの。その後、アメリカによる非核神戸方式つづきの動きや有事法成立などがあつたが、市長への質問のたびに、歴代の市長は「非核神戸方式は堅持する」と答弁してきた。

いま、日本における基地強硬化や特定港湾・空

くった実行委員会の主催で27年間続け、参加者の高齢化などもあって2022年で開催を終えた「1・17追悼・連帯・抗議の集い」を継承するものだ。実行委員会の有志でスタンディング行動を呼びかけてきた。

阪神・淡路大震災から30年

“追悼・連帯・抗議”の街頭行動

あわはら富夫神戸市議らがマイクアピール



大震災から30年の節目で開催を終えるこのスタンディング行動のスタディング=1月17日、神戸市役所前

た。被災地ではさまざまな追悼行事が行われ、神戸市中央区の東遊園地で

たものの、その後の自然災害の表情からはさらなる拡充が求められていることを強く訴えた。

- インフォメーション
デマと脅迫から民主主義を守る集い SNSによるデマ・誹謗中傷との戦い／真実を語り合う
- 2月22日(土) 13時~16時
◎ 兵庫区文化センター
- 2月23日(日) 14時~17時
◎ 神戸市灘区・王子動物園ホール
- 2月24日(月) 10時~13時
◎ 神戸市・中央区文化センター・多目的ホール
- 2月25日(火) 10時~13時
◎ 集会後デモ行進

改憲の動きをウォッチング

軍事基地と沖縄 軍事力の強化に突き進む自公政権にストップをかけねばならない

「琉球新報」社説は辺野古を巡る訴訟の終結を受け、「10年にわたる一連の法廷闘争が無駄だったかと言え、決してそうではない。問われているのは、この国の民主主義だ。沖縄の自己決定権や人権の抑圧が続く限り、犠牲を押し付けられる沖縄からの訴えがやむことではない。司法には権利救

1・講習室◎講義「T・ピケティ『資本とイデオロギー』を読み解く」岩佐卓也さん(専修大学教授)◎参加費500円◎主催：ゼミナール実行委員会

働き方と賃上げを、3月8日(土) 13時30分◎神戸市・中央区文化センター・多目的ホール◎闘争報告と記念講演◎主催：集会実行委員会◎集会後デモ行進

結成から10年 更なる発展へ議論

市民デモHYOGOが交流会

「こわすな憲法!」のちとくらし!市民デモHYOGO」の前身である「アベ政治を許さない!市民デモKOBÉ」の結成から10年を迎える節目に当たり、さらなる飛躍・発展にむけた展望を議論し交流する場として、「市民デモHYOGO」は1月12日、神戸市内で「2025新年交流会」



約50人が参加して「市民デモHYOGO」の今後について熱心に討論した=1月12日、神戸市

を開催し、約50人が参加した。交流会の冒頭、毎週木曜日のマルイ前行動に欠かさず参加し、横断幕やシール投票板などを制作するなど大きな貢献をしてきた井上さんへの黙祷が行われ、その後、昨年春の交流会以降の経過報告が行われた。昨年末の「兵庫県知事

選挙に異議あり!真相解明県民集会」には会場だけで約500人が参加し、会場に入り切れなかった人も含め1600人、1800人が参加したと見られるが、「予想を上回る未経験の事態で、集会運営などで反省する点は多くあったが、斎藤知事が当選しても、なお異議がある人が多いことを示せた集会だった」と総括し、今後も引き続きこの問題に取り組み、2月議会に予定される百条委員会の報告書提出に向けて取り組みを進めていくことが確認された。

参院選へ活動本格化 党総支部段階でも旗開き

軸テーマも多様化する中、市民デモHYOGOの共通理念として、「既存グループのネットワークから「市民に開かれたフラットホーム」へとシフトしながら、同じテーマを取り組むグループ同士の交流を活発化することなどが提案され、参加者全員

で確認した。また、「私たちはどこから来て、どこへ行くのか」21世紀の市民運動の回顧と展望」と題した山本昭宏さん(神戸外大准教授)による講演もあり、21世紀の市民運動が抱える問題を克服する方向も提示された。(中村)

2025年は、新社会党にとってはいよいよ正康さん(新社会党市民運動委員長)を7月の参院選で社民党の比例区(社民党推薦として名簿登載)から擁立してたたかうきわめて重要な年だ。各級機関でまさに党の命運がかかる選挙と位置づけ、その準備を進めている。そうした年の本格的な活動の出发点として、県本部の「旗開き」である「新春の集い」(一面記事)だけで

確認した。また、「私たちはどこから来て、どこへ行くのか」21世紀の市民運動の回顧と展望」と題した山本昭宏さん(神戸外大准教授)による講演もあり、21世紀の市民運動が抱える問題を克服する方向も提示された。(中村)



なく、地域の組織である総支部段階でも新年の決意を固めよう「旗開き」が開かれた。1月26日は灘総支部で(写真上)、1月30日には芦屋総支部で(写真下)。総支部委員長のあいさつなどののち、かい正康さんのビデオメッセージを観たり、懇親で交流を深めながら決意を固めた。ちなみに「旗開き」を辞書で調べてみると、「革新系の政党や労働組合で、党旗・組合旗を飾って新年の決意を表明する会合」とあった。

地域ユニオン あちこちあれこれ

昨年11月、滋賀にある半導体関連部品を製造するS社に派遣されているペルー人労働者から相談

派遣のペルー人労働者達のたたかい

が寄せられた。15年以上も同じ会社で働いているのに、有給休暇はなし、社会保険なし、雇用保険なし、ボーナスなし、深夜割増もない、という状態だ。5年前までは法定休日もなかったとの訴えもあった。

派遣元会社(屋号を持つ個人だった)に組合結成を通知と要求書を提出した。すぐ派遣元社長から電話があり、交渉することが決まった。ところが、その後、組合員に連絡し、すぐに滋賀労働局に出向き、労働者派遣法に基づく「みなし雇用制度」の申請を行った。派遣元は、

組合員に連絡し、すぐに滋賀労働局に出向き、労働者派遣法に基づく「みなし雇用制度」の申請を行った。派遣元は、組合員に連絡し、すぐに滋賀労働局に出向き、労働者派遣法に基づく「みなし雇用制度」の申請を行った。派遣元は、

「無期雇用とし、時給はこれまでどおり1600円、社会保険や有給休暇は法律どおり」と回答したが、ボーナスを含む諸手当については、「な

いこのことだった。理由は他の正社員より賃金が高く、諸手当やボーナスを出すのであれば賃金は下がるという。就業規則上、組合員は正社員ではないのか?ないのか?ないのか?という質問が返事がなく、社労士と相談の上、回答するのとであった。組合員は、正社員と同じ扱いになるのであれば時給は下がってもよいと言っており、同一労働同一賃金を引き続き求めていく。また、派遣元に対しては、まったく使えなかった有給休暇の保障や社会保険未加入に対する補償などを求めて、引き続き交渉を求めている。塚原久雄(武庫川ユニオン書記長)

よく噛んで食べる習慣をつけましょう

よく噛んで食べることで、食材本来の味を感じることができます。それだけでなく、あごを開けたり閉じたりするので顔などの骨や筋肉が動き、血流が増加し脳に酸素と栄養が送られ、脳細胞の働きが活発になります。高齢者では認知症の予防にもなると言われています。あごや口のまわりの筋肉を動かすことは、表情を豊かにしたり、きれいな発音で話すことにもつながります。周囲の人との会話もはずみます。柔らかい食材ばかりでなく、しっかり噛むと美味しい食材をプラスすることで、習慣化しませんか。

播州福崎町産のもち麦は、大麦の一種で、一般的な小麦に比べて高タンパク・高ミネラルで、ベータグルカンと呼ばれる食物繊維を多く含んでいます。コレステロールを下げる働きがあるといわれており、いま最も注目されている栄養素の一つです。白米に混ぜて炊くだけで他の麦には無い独特のプチプチした食感をお楽しみいただけます。



福崎町産100% 600g 700円

毎月のお米 いずれもコシヒカリ

- でかんしょ米 (小多田屋米穀店)
 - 5kg 3,300円 / 3kg 1,980円
- ささや米 (耕しや)
 - 白米 5kg 3,100円
 - 玄米 5kg 2,950円

(有)ぴいふる
電話/ファックス 078(531)0135



おんなのみ

子供の頃、相手をけなす時、「お前の母ちゃんデベン」という言葉があった。言われた方は否定するのだが、言う方は、事実はどうだっていいので、小蠅のようにうるさくかっいて帰る。言われた方は泣いて帰る。泣いて帰る。泣いて帰る。

大人になってそれをされたらどうだろう。馬鹿馬鹿し過ぎて相手にしないどころか、相手にできない。人間としての品性が許さないので。しかし、そのうち信じる人が現れ、一族郎党デベンにされ、デベンは人類最大の害悪となる。昨年11月の兵庫県知事選挙はデベン連呼のルール無用の馬鹿馬鹿しい選挙だった。

その張本人N党のTの選挙動向を観たことがある。令和の虎？と掛け合っている演説なのだ、実にパレルワールドだった。事実などどうでも良い。誰々が何々して、いこう、お笑い番組の大勝利のノリなのだ。前知事はいじめられていそう、告発者は何々して、いそう、流れるようなテンポで聴衆を笑わせながら、架空の世界を現実であるかのように刷り込んでいく。Tは、「選挙に行ったことのない知性猫レベルを下ネタで釣って投票させる」と言ったが、そのやり口は正しかった。

前知事Sの傲慢とコミユニケーション能力がな

兵庫県知事選挙に思う

聞くと、ネットで調べて判断したと言う。元々ワハラの容認度の高い人や組織の上下関係に順応している人は、検索すればするほど「Sは悪くない」に傾くだろう。ネット検索で公平な判断はできない。それはネットの検索アルゴリズムが、検索する人自身も気付けにくい無意識の傾向性をより強化するからだ。

無垢な人はいない。人はすべて物心ついた時から何らかの刷り込みを受けている。最初は親や家族から、学校教育や社会から、また自身の経験から何らかの価値基準を持っている。だからこそ、社会の共通の基準やルールが必要なのだ。今回の選挙に基準やルールがあったらどうか。今の世の中はダブルスタンダードが横行している。

今回の選挙は、基準もルールも人間としての品性までも無視され、今まで投票したこともない「犬猫野菜」が笛に吹かれて右往左往した選挙に思えて仕方がない。いつの時代にも「犬猫野菜」は多くいて、戦争の後押しするのにも「犬猫野菜」だ。その罪はあまりに大きいと私は思う。

からの自称1人の駅立ちも、周到に準備された「野菜収穫計画」だった。さらにSを支えたのは、視聴率を取りたいマスコミと、3年間の知事時代にSがちやっかりその前任者から引き継いだ兵庫県に巢食う利権や美味いものに預かった者たちと、レイシストの「犬猫野菜」だ。



寄稿

米岡史之さんを偲ぶ 体は小さいが、大きい 米岡史之の名

今村 稔

新社会党長田総支部所属で、熟年者ユニオンの会長を結成時から長く務めた米岡史之さんが1月1日、急逝した。91歳だった。



米岡史之さん

新年早々、私たちの手から人材の宝が奪われた。米岡史之さんの逝去である。

1933年生まれの享年91歳であった。敗戦直後、大連からの引揚げであったので、私より3つ年上であったが、学年齢では2年上であった。6・3制の新制中学の最初の卒業生であった。

国の独占資本の中核であり、労働運動でも同盟系運動の牙城であった職場で、資本に魂を売ることなく、抵抗を続けてきた。三菱資本は、米岡さんを吹けば飛ぶような存在と侮ったであろうが、この獅子身中の虫は喰い離れなかった。三菱資本が眼みをきかす中で、米岡さんと共にたたかおうとする労働者は多くはなかったが、密かに米岡さんと語る労働者は少なくなかったと聞く。

1933年生まれの享年91歳であった。敗戦直後、大連からの引揚げであったので、私より3つ年上であったが、学年齢では2年上であった。6・3制の新制中学の最初の卒業生であった。

先頭に立って叱咤する姿などおおよそ似合う人ではなかったが、震災後と重なった定年退職後は、神戸で熟年者ユニオンを立ち上げ、その会長に就き、10年間その任を務めた。

熟年者ユニオンは今日まで、さまざまな街頭宣伝活動、毎月のサントリーツチマンデモ、神戸市に対する敬老バスを守る署名活動、介護保険制度を改善・前進させる共闘組織の取り組み、関西電力に対する原発反対の抗議行動などを重ね、大衆運動が年を追って後退気味になる中で、吐いてきたが、その感じは、地味さとい

第2に指を折ることは、ほとんどの場合、それが三宮であろうと、明石であろうと、西宮であろうと、住んでいた長田の自宅（長者町というのでも皮肉なおかしみがあったが）から自転車でも来たことであつた。バイクを使うことも滅多にないことであつた。当初、熟年者ユニオンは生田川沿いのところに事務所を持っていたが、そこへの出勤も自転車だった。

第3に指を折ることは、どんな手作業でも、できることは自分でやろうとする心構えの持ち主であつた、ということである。兵庫土建の組合員にもなり、さまざまな修理作業

など大工さんそのものの自力でやっていたという。ただ、自宅のブロック塀は彼の背丈までしか積まれていなかったという、真偽のほどは定かでない笑話が残されていた。

運動を大きく強くしようとする志を持つものならば、決して忘れてはならない名は、米岡史之である。

劇場版ドクターXファイナル

これは、一匹狼の女医の話である。例えばこの女、群れを嫌い、権威を嫌い、束縛を嫌い、専門医のライセンスと叩き上げのスキルだけが彼女の武器だ――で始まる人気テレビドラマの映画化作品である。

2012年よりテレビ朝日で全国放送され、シリーズはシーズン7まであり、スペシャル版も含め、「私、失敗しない」の有名なセリフで愛され好評を得てきた。テレビシリーズでは、すぐれた脚本に贈られる橋田賞や向田邦子賞を受賞するなど高い評価を受けている。

本作は、テレビシリーズを含め、ドクターXシリーズの監督として知られる田村直己氏が務めている。田村氏はテレビシリーズの監督も手がけて

いる。脚本担当は、本作テレビシリーズで橋田賞と向田邦子賞を受賞した中園ミホ氏である。

ストーリーは、まず冒頭から面白い。とある国の大統領の生命を救うため大門未知子（米倉涼子）がその国の軍隊に雇われ、未知子の「私、失敗しない」のセリフ通り大統領を救うところから始まる。



森本光（田中圭）は、スパードクターとなった未知子の過去を知ろうと故郷まで訪ねて行き、想像を絶するものだったことに驚愕するのだった。

そして、舞台は日本へと移る。未知子は東帝大の病院で新たな院長となった若き天才外科医に呼び寄せられる。神津比呂人（染谷将太）である。神津には双子の弟・多可人（染谷二役）がいる。多可人は、車椅子の神童と言われた頭脳も、ち、医療機器メーカーのCEOを務め、メディアの話題となっていた。そんな弟をもつ比呂人だが、東帝病院長としてエピソード（根拠）を重視して医師たちを切り捨て、オーバードクターを擁するなど苦しめる。そんな比呂人に対して医師たちは憤

ここで未知子の若い日の姿が描かれていく。未知子役の八木莉可子が好演している。そして、森本を通して「福原名医紹介所」の所長、福原晶

（岸部一徳）の存在（正体）が明かされていくことになる。

シネマランド

テレビを含めシリーズのファイナル作品

監督 田村直己 / 2024年 / 日本 / 128分